

平成30年度今池校区社会福祉協議会事業計画

1. 基本理念（市社会福祉協議会地域福祉活動計画V）

「あの人の幸せを 私の幸せに」
～お互いさまをつないで 広げる 地域の福祉～

この基本理念の下、校区社協の活動を出来るだけ地域に根差した目に見える活動にする。

2. 基本目標

- ① 自治会をはじめとする地域の団体と協力し合える関係づくりをします。 （地域の協働）
- ② いつでも、どこでも声を掛け合い、共に暮らし、顔の見える今池校区にします。 （見守り強化）
- ③ 活動が発展できるよう、人材の発掘に取り組みます。 （事業の継続）

3. 基本的事業（継続して取り組む事業）

- ① つながる・・・声かけ、見守り活動による福祉ネットワークづくりをします。
「ネットワークの一元管理」をします。
- ② あつまる・・・身近なテーマで気楽に集まれるふれあいサロンを定期的に開催します。
「一人で食べるよりみんなで食べたほうが楽しい」会食会を定期的に開催します。
「敬老の集い」（今池敬老の日）を開催し地域の高齢者の健康長寿を祝います。
- ③ はなせる・・・何でも話せる地域の窓口として社協幹事宅に看板を掲げ対応します。
「福祉相談窓口」の設置。
- ④ ささえる・・・健康で元気に暮らせるよう、定期的に健康講座を開催します。
「参加体験型」講座の企画
- ⑤ かなえる・・・障がいのある人・介護をしている人たちの、気分転換が図れるよう日帰りの小旅行を企画・実施します。
- ⑥ たよれる・・・地域の関係団体と連携して、防災面などで適切な情報管理と緊急体制の構築をします。

4. 事業推進に必要な校区社協執行部体制づくり

「ミッション」「パッション」「アクション」をスローガンにする

- ① 各専門部の組織強化を図り、幹事会（執行部門）との連携を密にする。
- ② 副会長2名の担当部門を明確にする。
（ア）事業部・広報部担当
（イ）福祉ネットワーク部・ボランティア部担当
- ③ 幹事意思疎通のため、SNSを活用する。（コミュニケーション不足に対応する）
- ④ 地域福祉を推進するための研修会等を開催し広く福祉に関する自己研鑽に励み、併せて西部包括支援センターと連携を密にし地域福祉ニーズをタイムリーに把握できる体制づくり。

5. その他具体的事業内容について

- ① 校区社協の運営とボランティア活動の活性化
 - イ) ボランティア活動に参加してもらえる人材の発掘。
 - ロ) ボランティアの研修会の実施。
 - ハ) 西部包括支援センターと連携の下、要援護者ニーズの把握とボランティアコーディネーターによる調整を行う。
 - ニ) 自治会をはじめとする関係団体と協働して福祉の風土づくりの推進をする。
- ② 在宅福祉事業の推進
 - イ) 一人暮らし高齢者・昼間独居高齢者の会食会の開催。(年間8回)
 - ロ) 会食会勧誘を兼ねた友愛訪問(安否確認)の実施と、情報の一元管理。
 - ハ) 民児協・西部包括支援センターと情報を共有し見守り活動の成果を上げる。
 - ニ) ふれあいサロンの内容を検討し、自治会と協働で開催回数を増やす。
 - ホ) 在宅寝たきり高齢者や要支援障がい者を抱えた介護者の気分転換を図る企画を実施する。
- ③ 共同募金配分金を活用し以下の福祉活動を推進する。
 - イ) 地域住民を対象にした地域福祉懇談会及び研修会の実施。
 - ロ) 幼児・児童とのふれあい交流事業の実施。
 - ハ) その他必要と認められる事業。
- ④ 歳末助け合い募金の配分金を活用し、地域ニーズに即応した事業の実施。
 - イ) 福祉餅つき大会の実施(民児協・今池コミセン・校区社協共催事業)
 - ロ) 自主防災会主催の研修会・防災訓練の参加と協力(協賛金計上)
 - ハ) 体験学習(今池小:昔の暮らし・あそび体験学習)の実施・給食交流会での児童とふれあい交流。
 - ニ) 左義長(とんど焼き)の開催。(青少健・地域関係団体共催)
 - ホ) その他の事業。
- ⑤ 地域福祉推進事業
 - イ) 校区社協機関誌「福祉いまいけ」の発行配布。
 - ロ) 情報発信のためのニュース「ぬくもり」「今池福祉ニュース」の適宜発行と配布。
 - ハ) 委員及び会員の研修会、管外研修旅行の開催。
 - ニ) 年間活動写真展の開催。
 - ホ) 市社協、関係機関・団体等が行う福祉に関する研修会・講座・行事への参加。
- ⑥ 少額であっても自主財源の確保を目指す。
 - イ) 今池福祉バザーを2年に1回開催し、売り上げアップ策を考える。
 - ロ) ニュース・機関誌への広告主の募集。
 - ハ) 各種募金活動の増強。(社協会員募集・共同募金・歳末助け合い募金・日赤社員募集)